

人類社會の歴史を見るにその發展決して線型に非ず。或る時は比較的短き期間に大いなる變化あり。或る時は久しく變化を見ることなし。安定期と變動期の繰返しを以つて定型と爲す。今一つの歴史の視覺的表現は螺旋型なり。「歴史は直線的に進む」と「歴史は繰返す」の二つの認識は共に眞理として受け容れざるべからず。これを圖形として合成せば自づと螺旋型を成すなり。これを横より觀察せば進歩の存するを知り、上より眺むれば循環の相明らかなり。

かかる安定期と變動期の繰返しは何によりてか起こる。惟ふにこれ人間集團の生存領域(ニーチ)の擴大に係るなり。生存領域の擴大期は社會の變動多く、他方生存領域の擴大收まらば社會變動減少するに至る。人間集團の生存領域の擴大期においては、個の活動空間擴り、その自由度増すべし。他方擴大止まらば臆て領域全體飽和状態に達し、自由度減少す。より良き經濟條件を求めて競ふは人の常なり。領域擴大期は敗者は中央を逃れて邊境に赴き再起を圖ることを得。之に反し新しきニーチ消滅せば敗者脱出の途なく、競争は自づと抑壓せらるるに至る。これ飽和状態なり。

生産技術の發達は人間集團のニーチに大なる影響を及ぼす。二三の例を擧ぐるに、造船技術の發達は地中海の性格を變へ、これを諸民族の活動舞臺に變じたり。葡萄、オリーブの栽培技術によりて降雨量乏しく乾燥せるギリシヤ半島も多くの人口を支ふるを得たり。また鐵製の斧の發明は森林の伐採を可能とし、アルプス以北の廣大なる土地を新たなるニーチとして提供せり。されどニーチの限界を定むるに最も基本的なるは地理的要因なり。久しく大洋、大河、大山脈、砂漠、大森林等はニーチ擴大の自然的障害なりき。

人類社會はかかる安定期と變動期のそれぞれに應じて相異なれるシステムを有せり。前者には閉鎖系、後者には開放系のシステム對應す。閉鎖系のシステムにおいては全體の立場より個の活動を規制する社會構造出現し、その典型はヒエラルキーを成す。ヒエラルキーの頂點に立つものは全體を支配する權威と權力を共に有す。中國の歴代王朝、中世の歐洲、日本の幕藩體制、ペルーのインカ帝國等枚擧に遑なし。開放系のシステムにおいては萬人各々その最適を追及すれば結果において全體の最適實現せらるべしとて、全體の立場よりの調整は極力抑制せらるるを宗とす。戰國時代は歴史上好個の例なれども現代世界こそはその適例なれ。

概ね國家統一され強大なる帝國出現する時は、これに伴ひ社會は閉鎖系へ移行するを常とす。地理上の發見に先立つ世界の情勢は複數の閉鎖系システムの並存状態なりき。歐洲は中世の最中、中國は明朝、インドはムガルによる統一前夜、中東においてもオスマン帝國形成期なりき。歐洲以外の閉鎖系システムの完成に向ひつつあるとき歐洲全體は地理上の發見によりニーチの大擴大を見、その閉鎖系システムに變動の兆現はる。